

岡山県地区防災計画等作成推進協議会 第2回矢掛町美川地区部会

日時：令和3年10月2日（土） 19:00～

場所：美川小学校体育館（矢掛町下高末 2686）

1 開 会

2 議 題

- 第1回部会の振り返り
- 個別避難計画の作成について（作成の進め方等）
- ワークショップ
 - ・地区のハザード状況の確認
 - ・計画作成を優先する対象者の選定
 - ・個別避難計画の様式の検討
- その他

[岡山県地区防災計画等作成推進協議会アドバイザー]

- ・駒澤大学文学部社会学科 教授 川^{かわ}上^{かみ}富^{とみ}雄^お氏（福祉）
- ・ノートルダム清心女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授 中^{なか}井^い俊^{とし}雄^お氏（福祉）
- ・城西まちづくり協議会 事務局長 佐^さ々^さ木^き裕^{ゆう}子^こ氏（防災）

3 閉 会

岡山県地区防災計画等作成推進協議会 第2回矢掛町美川地区部会

配 付 資 料

○用語集（個別避難計画関係）

○災害対策基本法に基づく個別避難計画の様式の検討

○矢掛町避難行動要支援者登録調査書及び避難行動要支援者のための個別避難計画（案）

－ 参 考 資 料 －

○避難行動要支援者等の避難行動支援に関する取組指針（内閣府・令和3年5月改定）

- 1 ページ 優先度を踏まえた個別避難計画作成の流れ（例）
- 2 ページ 個別避難計画作成の段取りに係る考え方（例）
- 3 ページ 個別避難計画作成のより詳しい段取りイメージ（例）
- 4 ページ 個別避難計画の様式例（表）
- 5 ページ 個別避難計画の様式記入例（例3-1）（表）
- 6 ページ 個別避難計画の様式例（裏）
- 7 ページ 個別避難計画の様式記入例（例3-1）（裏）
- 8 ページ 個別避難計画の様式記入例（例3-2）（表）
- 9 ページ 個別避難計画の様式記入例（例3-2）（裏）

○参考資料（個別避難計画の様式例・兵庫県）

- 10 ページ～ 避難行動要支援者の「マイ・タイムライン」と「地域タイムライン」
- 12 ページ～ 避難行動要支援者のための個別支援計画（記入例）

○参考資料（個別避難計画の作成ヒント集・国土交通省中国地方整備局高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所）

- 14 ページ～ 地域連動型要配慮者マイ・タイムライン～作成ヒント集～
- 33 ページ～ 作成シートの様式

○参考資料（令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の避難のあり方について（最終とりまとめ）抜粋・内閣府）

- 35 ページ 優先度を踏まえた個別避難計画の策定
- 36 ページ 福祉専門職が参画した個別避難計画の策定（別府市・兵庫県）
- 37 ページ 地域調整会議（ケース会議）の開催（兵庫県内の市町）
- 38 ページ 避難訓練を実施した効果等（兵庫県内の市町）
- 39 ページ 個別避難計画に関与する関係者に対する研修（i-BOSA I）

用語集

■共通

○災害時要援護者

避難行動に限定せず、避難生活等も含めて援護が必要な者として想定されている者。

東日本大震災においては、被災地全体の死者数のうち、65歳以上の高齢者の死者数が約6割であり、障害者の死者数は被災住民全体の死亡率の約2倍と推計されているところであり、こうした教訓を踏まえ、平成25年の災害対策基本法の改正により、避難行動要支援者名簿の作成の条項が創設された（災害対策基本法第49条の10）。

その条文では、平時より、災害時における個々の要配慮者の避難支援を具体的に想定しておくため、災害発生時の避難行動について特に支援を要する避難行動要支援者の名簿作成等を市町村長に義務付けているが、本条創設前は、災害時要援護者等と呼称されていた。

○要配慮者

高齢者、障害者、乳幼児、その他の特に配慮を要する者（災害対策基本法第8条第2項第15号）。

○避難行動要支援者

要配慮者のうち、災害が発生し、または災害が発生する恐れがある場合に自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援を要する者（災害対策基本法第49条の10第1項）。配慮の一形態として、避難行動に係る配慮が必要な者。

○避難行動要支援者名簿

避難行動要支援者について避難の支援、安否の確認、その他の避難行動要支援者の生命、または身体を災害から保護するために必要な措置を実施するための基礎とする名簿（災害対策基本法第49条の10第1項）。

○個別避難計画

高齢者や障害者等のうち、自ら避難することが困難であり、避難の確保を図るため、特に支援を要する避難行動要支援者一人ひとりに応じて作成する避難支援のための計画。令和3年5月の災害対策基本法の改正により、法第49条の10（個別避難計画の作成）に「市町村が計画を作成するよう努めなければならない」という規定が新たに設けられた。

避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針では、優先度を踏まえた計画作成に当たり、特に介護支援専門員や相談支援専門員は、避難行動要支援者のうち、介護保険サービス等の利用者について、①日頃からケアプラン等の作成を通じて、当事者本人の状況等をよく把握しており、信頼関係も期待できること、②ケアプラン作成等に合わせて行うことが効果的であること、③災害時のケア継続にも役立つことなどから、個別避難計画の作成業務に福祉専門職の参画を得ることが極めて重要であるとされている。

○地区防災計画

市町村内の一定の地区内の居住者及び当該地区に事業所を有する事業者（地区居住者等）が共同して行う防災訓練、地区居住者等による防災活動に必要な物資及び資材の備蓄、災害が発生した場合における地区居住者等の相互の支援、その他の当該地区における防災活動に関する計画（災害対策基本法第42条第3項）。

<計画の特徴等>

計画内容の例示として上記を挙げているが、相互に支援し合う共助の活動内容であれば当該地区に必要なものを自由に記載できる。また、地区防災計画が策定されると、災害時に各地区の現場で、住民等が、地区での避難行動や、避難時、避難生活での相互支援の活動をどのように行うかが具体的に整理され明らかになり、公助の支援で何を補えばよいか整理できるようになる（自助・共助と公助の一体性）。

<地区防災計画と個別避難計画の関係性>

個別避難計画は、災害時の避難支援等を実効性にあるものとするため、地域の特性や実情を踏まえ、避難行動要支援者一人ひとりに合わせた避難支援等に関する計画である。地区防災計画は、計画事項を自由に定められる計画であるため、個別避難計画に定められた内容を地区防災計画に含むことについて問題はなく、実態として、地区防災計画で定められた要支援者の部分をより具体化、詳細化したものが個別避難計画に相当することになることが多いと想定される。

○アセスメント

福祉専門職が当事者本人からサービスに結びつける情報収集や分析を行うことであり、利用者の生活支援のため、このようなプロセスを通じてケアプランを作成する。

○当事者力アセスメント

福祉専門職が避難行動要支援者に対して行うアセスメント。兵庫県では、個別避難計画の作成の過程で「安心防災帳」を使い、平時の福祉サービスや家庭環境、本人の防災リテラシー（災害リスクの理解や災害に対する備えの自覚等の自助力）を確認し、リテラシーの向上を図っている。

○地域力アセスメント

地域での避難支援に利用可能なフォーマル資源（消防、利用している福祉サービス事業所、病院、地域包括支援センター等）、インフォーマル資源（自治会、民生委員、当事者団体等）についてのアセスメント。

○調整会議（ケース会議）

避難行動要支援者（その家族を含む）と、支援関係者（地域の支援者、近隣住民、民生委員、自主防災組織役員、自治会役員、担当福祉専門職、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会等）が集まり、避難行動要支援者の心身や家族等の状況、地域とのつながり、また、平時の福祉サービス利用の状況を共有する。その上で、災害時の個々の避難支援に関する方針を協議する場であり、ケア会議等と呼ばれることもある。

○安心防災帳

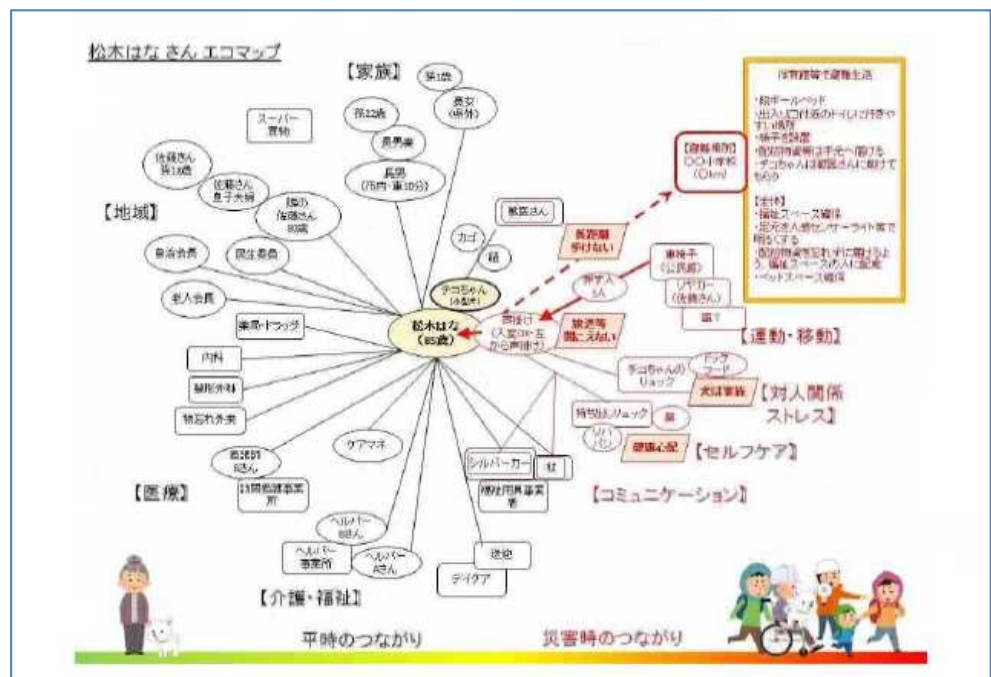
正式名称は、自分でつくる安心防災帳。国立障害者リハビリテーションセンター研究所福祉機器開発室福祉デザインワークショップによって開発された災害時の備えについてシールを用いて行うアセスメントツール。



(国立障害者リハビリテーションセンター研究所ホームページ)

○エコマップ

社会福祉の支援において、利用者と家族や外部の人、組織等の社会資源との関係性を表すマッピング技法。関係性を視覚化することにより、置かれている状況を整理し、生活の中の課題や解決の糸口を考えることに役立つ。



(2019年兵庫県福祉専門職対象防災対応力向上研修資料)

■福祉に関する用語

○民生委員

厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める者。民生委員法に規定されている特別職の地方公務員。独居等高齢者宅の訪問や地域住民の生活相談や援助を行う。民生委員は児童委員を兼務しており、「民生・児童委員」と呼ばれる場合もある。

○福祉専門職

平時に避難行動要支援者の福祉サービス利用の計画作成や調整等の支援を行う専門職。主には高齢分野（介護保険）における「ケアマネジャー」や障害分野における「相談支援専門員」のことを指す。

○ケアマネジャー

介護保険サービスの利用者に対し、ケアプラン（介護サービス計画）の作成や介護保険サービスの調整といったケアマネジメントを行う専門職。正式には、介護支援専門員と言う。

○相談支援専門員

障害者の生活を支援し、障害福祉サービス等の利用計画の作成等、障害者のケアマネジメントを行う専門職。

○コミュニティソーシャルワーカー

地域で支援が必要な人と地域の人材や制度、サービス、住民の援助等を組み合わせたり、新しい仕組みづくりのための調整やコーディネートを行ったりする者（例えば、社会福祉協議会や高齢分野では地域包括支援センター等に所属する職員）。

○地域包括支援センター

高齢者の暮らしを介護、医療、保健、福祉の側面から支える総合相談窓口。主任ケアマネジャー、保健師、社会福祉士等が所属しており、暮らしのさまざまな相談に応じる。行政が設置するが、民間法人に運営を委託している自治体も多い。

○社会福祉士

国家資格を得た相談援助の専門職。地域包括支援センターや病院地域連携室をはじめとし、福祉、介護、医療、教育、司法など、様々な分野で活動している。

■防災に関する用語

○ハザード（マップ）

本来は危険を意味する言葉であるが、一般的には災害を引き起こす自然の力（例えば、地震・台風・大雨・津波）を意味している。

ハザードマップは、各市町村で作成されている災害の発生と被害の大きさを想定して記入した地図であり、津波、洪水、土砂等のハザードの種類別に作成されることが多い。

○マイ・タイムライン

住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨で河川水位が上昇するときに、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考えて命を守る避難行動の一助とするもの。

○災害・避難カード

各自が避難すべき場所、避難を支援してくれる人、避難のタイミング等をあらかじめ認識しておくため、それらの情報をコンパクトにまとめたカード。

○防災リテラシー

災害についての情報を適切に処理する能力のこと。地域の災害リスクや必要な備え等、防災に関する正しい知識を持ち、必要な支援を求めることも含めて、災害発生時に適切な行動をとることができる能力を指す。

○福祉避難所

高齢者や障害者、妊産婦、乳幼児など、避難所での継続した生活が難しいと判断される方のための環境や設備について特別な配慮がなされた避難所。

出典：2019年度兵庫県防災と福祉の連携促進モデル事業報告書

逐条解説災害対策基本法 防災研究会編集 ぎょうせい

避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針（令和3年5月改定
（内閣府防災））

個別避難計画の作成に関する国説明会資料

地区防災計画の素案作成支援ガイド～地方公共団体の職員の方々へ～

災害対策基本法に基づく個別避難計画の様式の検討（矢掛町）

○記載必須事項

●…必須事項

項目	対象者		名簿	計画	備考
	要支援者	避難支援等実施者			
氏名（又は名称）	★	★	●	●	
生年月日	★	—	●	●	
性別	★	—	●	●	
住所（又は居所）	★	★	●	●	
電話番号その他の連絡先	★	★	●	●	
避難支援等を必要とする事由	★	—	●	●	
避難場所	★	—	—	●	
避難経路	★	—	—	●	
市町村が必要と認める事項	★	—	—	※	

[市町村が必要と認める事項例]

- ・ 自宅で想定されるハザードの状況、移動の際の持出品、移動時に必要な合理的な配慮の内容について特記事項や留意事項に記載等すること。
- ・ 避難行動要支援者の性別等により、避難支援等実施者の選定に配慮が必要な事項を記載等すること。

○その他検討項目

○災害対策基本法（参考）

◆第 49 条の 14 第 3 項

（個別避難計画の記載等事項）

個別避難計画には、第 49 条の 10 第 2 項第 1 号から第 6 号までに掲げる事項のほか、避難行動要支援者に関する次に掲げる事項を記載し、又は記録するものとする。

（1）避難支援等実施者（避難支援等関係者のうち当該個別避難計画に係る避難行動要支援者について避難支援等を実施する者をいう。次条第 2 項において同じ。）

の氏名又は名称、住所又は居所及び電話番号その他の連絡先

（2）避難施設その他避難場所及び避難路その他の避難経路に関する事項

（3）前 2 号に掲げるもののほか、避難支援等の実施に関し市町村長が必要と認める事項

◆第 49 条の 10 第 2 項

（避難行動要支援者名簿に記載等事項）

避難行動要支援者名簿には、避難行動要支援者に関する次に掲げる事項を記載し、又は記録するものとする。

（1）氏名

（2）生年月日

（3）性別

（4）住所又は居所

（5）電話番号その他の連絡先

（6）避難支援等を必要とする事由

（7）前各号に掲げるもののほか、避難支援等の実施に関し市町村長が必要と認める事項

矢掛町避難行動要支援者登録調査書

矢掛町長 様

私は、避難行動要支援者登録制度の趣旨に賛同し、同制度への登録を希望します。

また、私が届け出た下記個人情報を町が地区自治協議会、避難支援者（情報伝達支援者）、消防署、警察署に提供することに同意します。

本人氏名 代理人氏名 (続柄)

住 所	電話						
	携帯						
	FAX						
ふりがな 氏 名	血液型 A・B・O・AB	性 別 男・女	生年月日	明・大 昭・平	年	月	日生

災害時に地域の 支援を必要 とする理由 (該当項目全てに○ をつけてください)	<input type="checkbox"/> ①寝たきり(要介護3以上)在宅者	<input type="checkbox"/> ⑤一人暮らしの高齢者(65才以上)
	<input type="checkbox"/> ②身体障害者	<input type="checkbox"/> ⑥高齢者(65才以上)のみの世帯
	<input type="checkbox"/> ③療育手帳の交付を受けている人	<input type="checkbox"/> ⑦認知症(要介護3以上)の症状を有する人
	<input type="checkbox"/> ④精神障害者	<input type="checkbox"/> ⑧その他各項目に準ずる状態にある人

緊急時家族等 の連絡先	氏 名 (続柄)	住 所	電話番号
	()		
	()		

その 他 の 支 援 者	区 分	氏 名	住 所	電話番号

かかり付け 医療機関	家族構成	人世帯	緊急通報 システム	有 ・ 無
	居住建物 の構造		歩行の可否	可 ・ 否
	普段いる 部屋		寝室の 位置	

特記事項 ※災害時の避難支援 を円滑にするため知 らせたこと	例： ・目が不自由 ・車いす使用 ・危険通報指示を察知できない
---	---------------------------------

福祉サービス利用	
----------	--

避難情報	避難方法	<input type="checkbox"/> 歩行(自力)	<input type="checkbox"/> 徒歩(要支援)	<input type="checkbox"/> 自力不能
	最寄りの避難場所	2次避難場所		
	地域防災組織	矢掛町消防団 ()分団 第()部		
	自主防災組織			

備 考	
-----	--

<input type="checkbox"/> ほっとボトル

避難行動要支援者のための個別避難計画


作成日 年 月 日

住 所	〒 小田郡矢掛町				電話	
					携帯	
					FAX	
ふりがな		血液型	性 別	生年月日	明・大	年 月 日生
氏 名		A・B・O・AB	男・女		昭・平	年 月 日生

災害時に地域の支援を必要とする理由 (該当項目全てに○をつけてください)	<input type="checkbox"/> ①寝たきり(要介護3以上)在宅者	<input type="checkbox"/> ⑤一人暮らしの高齢者(65才以上)
	<input type="checkbox"/> ②身体障害者	<input type="checkbox"/> ⑥高齢者(65才以上)のみの世帯
	<input type="checkbox"/> ③療育手帳の交付を受けている人	<input type="checkbox"/> ⑦認知症(要介護3以上)の症状を有する人
	<input type="checkbox"/> ④精神障害者	<input type="checkbox"/> ⑧その他各項目に準ずる状態にある人

緊急時家族等の連絡先	氏 名 (続柄)	住 所	電話番号
	()		
	()		

かかり付け医療機関	家族構成	人世帯	緊急通報システム	有 ・ 無
	居住建物の構造		歩行の可否	可 ・ 否

特記事項 ※災害時の避難支援を円滑にするため知らせたいこと	例： ・目が不自由 ・車いす使用 等	見取図※寝室の位置、普段いる部屋等 
	居住建物	

要支援情報	介護認定	要支援 1 ・ 2 要介護 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 (認知症) 有 ・ 無
	障害者手帳	身体障害者手帳 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 級 , 療育手帳 A ・ B
		精神障害者保健福祉手帳 1 ・ 2 ・ 3 級

利用中のサービス	介護保険	サービス	
		事業所名	電話
	障害福祉	サービス	
		事業所名	電話

避難情報	避難方法	<input type="checkbox"/> 歩行 (自力) <input type="checkbox"/> 徒歩 (要支援) <input type="checkbox"/> 自力不能
	最寄りの避難場所	2次避難場所
	地域防災組織	矢掛町消防団 () 分団 第 () 部
	自主防災組織	

<input type="checkbox"/> ほっとボトル	<input type="checkbox"/> 避難行動要支援者台帳	<input type="checkbox"/> 目配り気配りネットワーク活動
---------------------------------	-------------------------------------	---

岡山県地区防災計画等作成推進協議会 第2回矢掛町美川地区部会

配 付 資 料

－ 参 考 資 料 －

○避難行動要支援者等の避難行動支援に関する取組指針（内閣府・令和3年5月改定）

- 1 ページ 優先度を踏まえた個別避難計画作成の流れ（例）
- 2 ページ 個別避難計画作成の段取りに係る考え方（例）
- 3 ページ 個別避難計画作成のより詳しい段取りイメージ（例）
- 4 ページ 個別避難計画の様式例（表）
- 5 ページ 個別避難計画の様式記入例（例3-1）（表）
- 6 ページ 個別避難計画の様式例（裏）
- 7 ページ 個別避難計画の様式記入例（例3-1）（裏）
- 8 ページ 個別避難計画の様式記入例（例3-2）（表）
- 9 ページ 個別避難計画の様式記入例（例3-2）（裏）

○参考資料（個別避難計画の様式例・兵庫県）

- 10 ページ～ 避難行動要支援者の「マイ・タイムライン」と「地域タイムライン」
- 12 ページ～ 避難行動要支援者のための個別支援計画（記入例）

○参考資料（個別避難計画の作成ヒント集・国土交通省中国地方整備局高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所）

- 14 ページ～ 地域連動型要配慮者マイ・タイムライン～作成ヒント集～
- 33 ページ～ 作成シートの様式

○参考資料（令和元年台風第19号等を踏まえた高齢者等の避難のあり方について（最終とりまとめ）抜粋・内閣府）

- 35 ページ 優先度を踏まえた個別避難計画の策定
- 36 ページ 福祉専門職が参画した個別避難計画の策定（別府市・兵庫県）
- 37 ページ 地域調整会議（ケース会議）の開催（兵庫県内の市町）
- 38 ページ 避難訓練を実施した効果等（兵庫県内の市町）
- 39 ページ 個別避難計画に関与する関係者に対する研修（i-BOSA I）

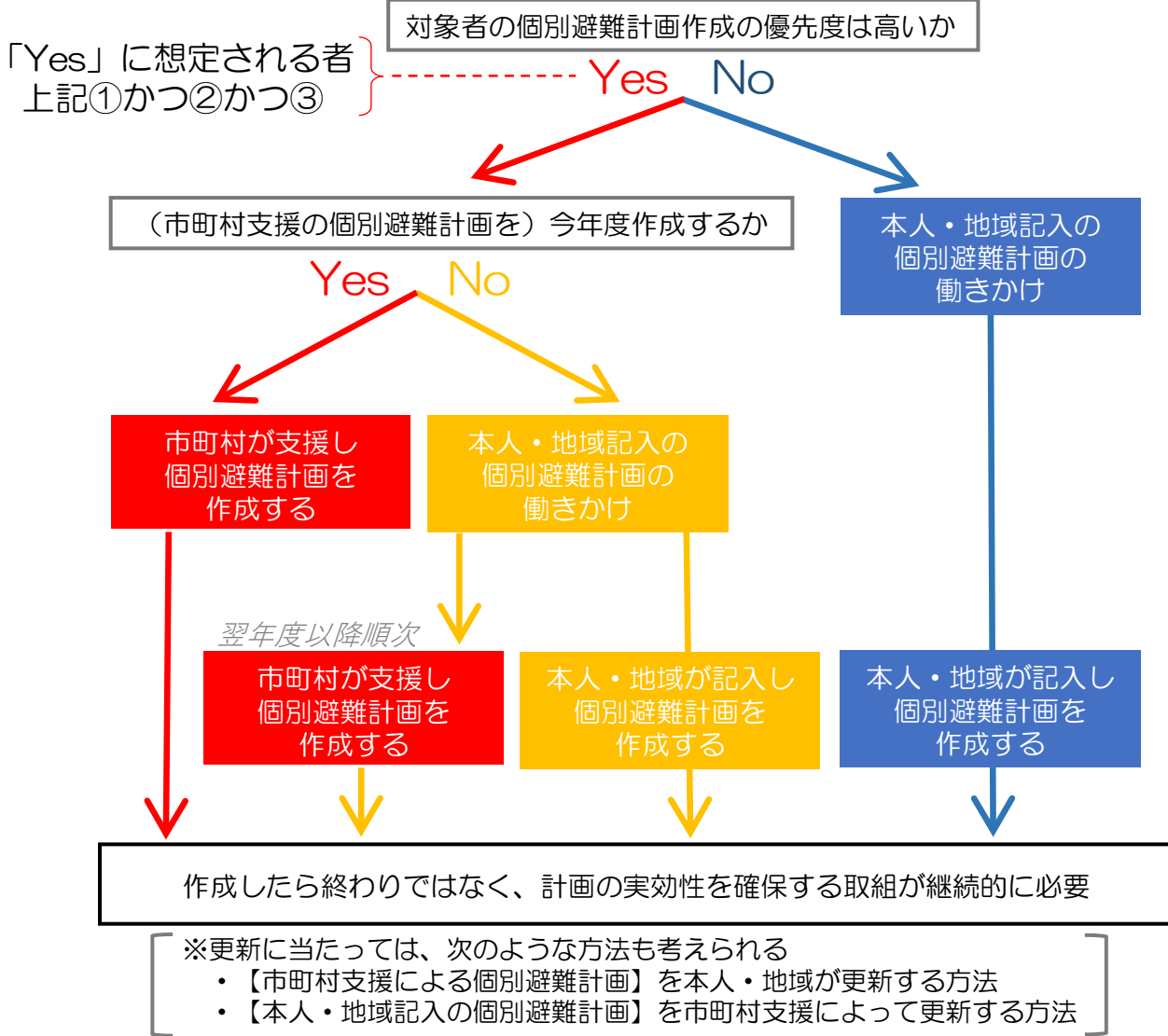
優先度を踏まえた個別避難計画作成の流れ（例）

計画作成の優先度に関する考え方

個別避難計画は、優先度が高い避難行動要支援者から作成することが適当
 <考慮すべきポイント>

- ① 地域におけるハザードの状況（洪水・津波・土砂災害等の危険度の想定）
- ② 避難行動要支援者本人の心身の状況、情報取得や判断への支援が必要な程度
- ③ 独居等の居住実態、社会的孤立の状況

令和3年改正法施行後からおおむね5年程度で優先度が高い方の計画作成が完了するように、本年度から作成を始める



【市町村が支援】 【本人・地域が記入】の個別避難計画

- 市区町村の限られた体制の中でできるだけ早期に避難行動要支援者全体に計画が作成されるようにするためには、市町村が作成する個別避難計画として、
 - ①市町村が優先的に支援する計画づくりと並行して、
 - ②本人や、本人の状況によっては、家族や地域において防災活動を行う自主防災組織が記入する計画（本人・地域記入の個別避難計画）づくりを進めることが適当である。
- 本人・地域記入の個別避難計画も必要な内容の計画とすることができ、市町村支援か本人・地域記入かは個別避難計画の内容の優劣を示すものではないことに留意。

個別避難計画作成の段取りに係る考え方（例）

計画作成の優先度を以下の3つのポイントで判断する

- ① 地域におけるハザードの状況（洪水・津波・土砂災害等の危険度の想定）
 - ・ 河川：浸水想定区域など（「浸水深が●m以上」や「建物倒壊が予想される」地域など自治体の状況・実情に応じ設定）
 - ・ 海岸・河川沿い：津波災害特別警戒区域など
 - ・ 傾斜地：土砂災害特別警戒区域など 等
- ② 対象者の心身の状況、情報取得や判断への支援が必要な程度
 - ・ 重度の要介護や障がいのある者、人工呼吸器使用者等、自力での判断や避難が困難な者
- ③ 独居等の居住実態、社会的孤立の状況
 - ・ 避難支援者が側にいない

作成の優先度が高いと判断⇒市町村が支援し個別避難計画作成

対応の流れ
（例）

【Step1】 庁内外における推進体制の整備、個別避難計画の作成・活用方針の検討（共通）

- ・ 福祉や医療関係者等の参画を得て、取組を推進するための連絡会議等を開催することが望ましい

【Step2】 計画作成の優先度に基づき対象地区・対象者を選定（共通）

【Step3】 福祉や医療関係者等に個別避難計画の意義（目的、制度概要、作成の必要性等）や事例を説明

【Step4】 避難支援者となる自主防災組織や地区住民に個別避難計画の意義や事例を説明

【Step5】 市町村における本人の基礎情報の収集、関係者との事前調整等

【Step6】 市町村、本人・家族、福祉や医療関係者等による個別避難計画の作成

- ・ 福祉や医療関係者等が当事者と避難についての対話、意見交換する
- ・ 関係者が一堂に会する地域調整会議を開催することが望ましい
- ・ 本人の心身の状況等によっては、本人宅で情報共有、調整を行うことも考えられる

【Step7】 作成したら終わりではなく実効性を確保する取組を実施

- ・ 避難支援等関係者への計画の提供、更新、本人の状況等に応じた訓練の実施等を継続的に実施

作成の優先度が相対的に高くないと判断⇒本人・地域が記入し個別避難計画作成

対応の流れ
（例）

【Step1】 庁内外における推進体制の整備、個別避難計画の作成・活用方針の検討（共通）

【Step2】 計画作成の優先度に基づき対象地区・対象者を選定（共通）

【Step3】 福祉や医療関係者等に個別避難計画の意義（目的、制度概要、作成の必要性等）や事例を説明

【Step4】 避難支援者となる自主防災組織や地区住民に個別避難計画の意義や事例を説明

【Step5】 本人・地域による個別避難計画の作成

- ・ 地区でのマイ・タイムラインや地区防災計画の取組は個別避難計画と相乗効果が期待される

【Step6】 作成した個別避難計画を市町村に提出、市町村が確認

【Step7】 作成したら終わりではなく実効性を確保する取組を実施

- ・ 避難支援等関係者への計画の提供、更新、本人の状況等に応じた訓練の実施等を継続的に実施

上記のステップは先行自治体を参考に作成。今後のモデル事業を基に改訂の可能性あり

個別避難計画作成のより詳しい段取りイメージ（例）

- ・作成の優先度が高いと判断⇒「市町村が支援し個別避難計画作成」する場合
- ・避難行動要支援者名簿の外部提供に同意している又は条例に特別の定めがある場合

作成の優先度が高いと判断⇒市町村が支援し個別避難計画作成

【Step1】 庁内外における推進体制の整備、個別避難計画作成・活用方針の検討

推進体制については、以下のような者の参加が考えられる

（庁内:防災・消防等、福祉・保健・医療等 庁外:社協、福祉事業者、医療関係者等）

【Step2】 計画作成の優先度に基づき対象地区・対象者を選定

・計画作成の優先度を検討する

① 地域におけるハザードの状況（洪水・津波・土砂災害等の危険度の想定）

- ・河川：浸水想定区域など（「浸水深が●m以上」や「建物倒壊が予想される」地域など自治体の状況・実情に応じ設定）
- ・海岸・河川：津波災害特別警戒区域など
- ・傾斜地：土砂災害特別警戒区域など 等

② 対象者の心身の状況、情報取得や判断への支援が必要な程度

- ・重度の要介護や障がいのある者等、人工呼吸器使用者、自力での判断や避難が困難な者

③ 独居等の居住実態、社会的孤立の状況

【Step3】 福祉や医療関係者等に個別避難計画の意義（目的、制度概要、作成の必要性等）や事例を説明

【Step4】 避難支援者となる自主防災組織や地区住民に個別避難計画の意義や事例を説明

・関係者への説明が望ましい、また、研修を実施することも考えられる

・個別避難計画は「避難支援等関係者に平時から／災害時にも提供できる」ことを説明する

【Step5】 市町村における本人の基礎情報の収集、関係者との事前調整等

・避難行動要支援者名簿等に基づき必要な基礎情報を確認する

・避難支援等実施者の候補者に協力を打診する

・避難先候補施設の管理者等に避難の受入れが可能かどうか確認する

【Step6】 市町村、本人・家族、福祉や医療関係者等による個別避難計画の作成

・市町村や都道府県等が保有する情報を基に、個別避難計画に必要な情報を記入する

・避難行動要支援者に制度の概要や記載事項等を説明し、計画作成に同意か確認する

・避難行動要支援者本人の意向を確認する：「避難先」や「避難支援等実施者」等について

・避難行動要支援者に個別避難計画情報の平常時の外部提供について同意か確認する※1

・避難行動要支援者に個別避難計画（素案）の訂正、追記等を依頼する（※1 条例に特別の定めがない場合）

・福祉や医療関係者等※2が当事者と避難についての対話、意見交換する（※2 自主防災組織や福祉専門職など関係者の参画が望ましい）

・関係者が一堂に会する地域調整会議を開催することが望ましい

・本人の心身の状況等によっては、本人宅で情報共有、調整を行うことも考えられる

・本人の意向を踏まえ、地域の関係者や施設管理者等と調整や検討を行う

・必要事項を記入した個別避難計画を本人に確認してもらう

・個別避難計画の作成完了

【Step7】 作成したら終わりではなく実効性を確保する取組を実施

・避難支援等関係者に個別避難計画情報（避難支援等実施者・避難先等）を提供する

・避難支援等関係者への計画の提供、更新、本人の状況等に応じた訓練の実施等を継続的に実施

・自主防災組織や福祉専門職など関係者と連携した取組が期待される

対応の流れ
（一例）

上記のステップは先行自治体を参考に作成。今後のモデル事業を基に改訂の可能性あり

個別避難計画の様式例(表)

氏名 ※児童の場合は（ ）で保護者の氏名を記入			
生年月日		年齢	
住所又は 居所			
性別	男 ・ 女	電話番号	
携帯番号		F A X 番号	
メール アドレス			
同居家族等			
避難場所	名 称		
	住 所		
緊急時の 連絡先①	フリガナ		
	氏名（団体名）		
	住 所		
	連絡先	電話番号 1 : 電話番号 2 :	メールアドレス : その他 :
緊急時の 連絡先②	フリガナ		
	氏名（団体名）		
	住 所		
	連絡先	電話番号 1 : 電話番号 2 :	メールアドレス : その他 :
避難支援 等実施者 情報①	フリガナ		
	氏 名 (団体名及び代表者)		
	住 所		
	連絡先	電話番号 1 : 電話番号 2 :	メールアドレス : その他 :
避難支援 等実施者 情報②	フリガナ		
	氏 名 (団体名及び代表者)		
	住 所		
	連絡先	電話番号 1 : 電話番号 2 :	メールアドレス : その他 :

※これは例であり、地域において様式に記載すべき事項を検討した上で、各市町村において様式を作成し、利用すること。
 ※特に記載が必要な内容事項がない場合「なし」や「－」と記載等 することです。

個別避難計画の記入例（例3-1）（表）

氏名 ※児童の場合は（ ）で保護者の氏名を記入	ボウイ カル 防災 かおる		
生年月日	昭和△年△月△日	年齢	△歳
住所又は 居所	東京都□□区□□△-△		
性別	男 ・ 女	電話番号	03-△-△
携帯番号	090-△-△	FAX番号	なし
メール アドレス	◇◇@◇.jp		
同居家族等	なし		
避難場所	名 称	□区立□小学校	
	住 所	東京都□□区□□-△	
緊急時の 連絡先①	フリガナ	ボウイ ハコ	
	氏名（団体名）	防災 花子	
	住 所	東京都□□区□□-△	
	連絡先	電話番号1：03-△-△ 電話番号2： メールアドレス：なし その他：不在時は携帯へ 090-△-△	
緊急時の 連絡先②	フリガナ		
	氏名（団体名）		
	住 所		
	連絡先	電話番号1： 電話番号2： メールアドレス： その他：	
避難支援 等実施者 情報①	フリガナ	■カジシボ カイツキ チク 仔ウ	
	氏 名 <small>（団体名及び代表者）</small>	■地区自主防災組織 会長 地区 一郎	
	住 所	東京都□□区□□-△	
	連絡先	電話番号1：080-△-△ 電話番号2： メールアドレス：◇@◇ その他：	
避難支援 等実施者 情報②	フリガナ		
	氏 名 <small>（団体名及び代表者）</small>		
	住 所		
	連絡先	電話番号1： メールアドレス： その他：	

※ 避難支援等実施者を複数記載等
しない場合も想定される。

※これは例であり、地域において様式に記載すべき事項を検討した上で、各市町村において様式を作成し、利用すること。
※特に記載が必要な内容事項がない場合「なし」や「-」と記載等 することで足りるものとする。

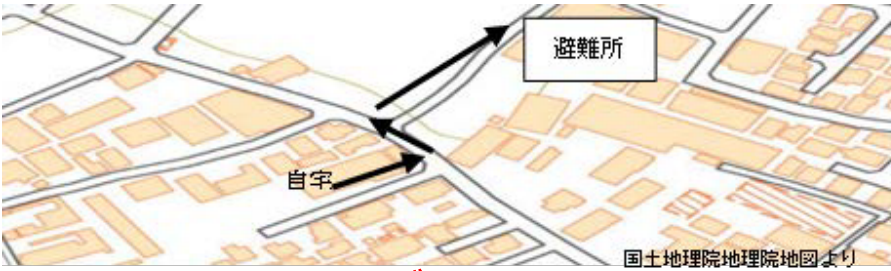
個別避難計画の記入例（例3-2）（表）

氏名 ※児童の場合は（ ）で保護者の氏名を記入		ボウイ 知 防災 太郎	
生年月日	昭和△年△月△日	年齢	△歳
住所又は 居所	東京都□□区□□△-△		
性別	男・女	電話番号	03-△-△
携帯番号	090-△-△	FAX番号	なし
メール アドレス	◇◇@◇.jp		
同居家族等	なし		
避難場所	名 称	□区立□中学校	
	住 所	東京都□□区□□-△	
緊急時の 連絡先①	フリガナ	ボウイ ハコ	
	氏名（団体名）	防災 花子	
	住 所	東京都□□区□□-△	
	連絡先	電話番号1：03-△-△ 電話番号2： メールアドレス：なし その他：不在時は携帯へ 090-△-△	
緊急時の 連絡先②	フリガナ	ボウイ 仔知	
	氏名（団体名）	防災 一郎	
	住 所	千葉県□□市□□-△	
	連絡先	電話番号1：03-△-△ 電話番号2： メールアドレス：なし その他：不在時は携帯へ 090-△-△	
避難支援 等実施者 情報①	フリガナ	チク 知	
	氏 名 (団体名及び代表者)	地区 太郎	
	住 所	東京都□□区□□-△	
	連絡先	電話番号1：080-△-△ 電話番号2： メールアドレス：◇@◇ その他：	
避難支援 等実施者 情報②	フリガナ	ケンウ サク	
	氏 名 (団体名及び代表者)	健康 桜子	
	住 所	東京都□□区□□-△	
	連絡先	電話番号1：090-△-△ 電話番号2： メールアドレス： その他：	

※ 代理記入が必要な場合は
児童の場合と同様の取り扱い
を行うことが考えられる。

※これは例であり、地域において様式に記載すべき事項を検討した上で、各市町村において様式を作成し、利用すること。
※特に記載が必要な内容事項がない場合「なし」や「-」と記載等 することで足りるものとする。

個別避難計画の記入例（例3-2）（裏）

避難時に 配慮しなく てはならな い事項	（あてはまるものすべてに <input checked="" type="checkbox"/>) <input checked="" type="checkbox"/> 介護保険の認定を受けている【要介護状態区分：要介護3】 <input type="checkbox"/> 手帳所持【障害名 等級：】 <input type="checkbox"/> 難病の特定医療費、小児慢性特定疾病医療費の支給認定を受けている <input type="checkbox"/> 医療機器の装着等をしている <input checked="" type="checkbox"/> 立つことや歩行ができない <input checked="" type="checkbox"/> 音が聞こえない（聞き取りにくい） <input type="checkbox"/> 物が見えない（見えにくい） <input type="checkbox"/> 言葉や文字の理解がむずかしい <input type="checkbox"/> 危険なことを判断できない <input type="checkbox"/> 顔を見ても知人や家族とわからない <input type="checkbox"/> その他
特記事項 自宅で想定 されるハザ ード状況・ 常備薬の有 無等	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子での生活（自操可） ・自宅マンション1階、想定最大規模の洪水が発生した場合、ハザードマップでは2階まで浸水してしまうエリアである（<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>川の洪水） ・常備薬は<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>に保管。かかりつけ医は<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>、主治医<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>先生 ・左耳が聞き取りにくいいため、話をするときは右側から ・電話を使うことができる ・寝室はトイレの横の部屋
避難支援時の留意事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>区水害ハザードマップ△ページ参照 ・避難所は自宅より徒歩5分程度 ・避難所（<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>中学校）の前の道には段差があり注意が必要 ・避難所（<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>中学校）にはEVあり ・避難経路 自宅⇒<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>信号を左折⇒<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>交差点を右折⇒直進⇒<input type="checkbox"/><input type="checkbox"/>中学校正門 	
	
記入例3-1より詳しい内容を記載。 市町村が予め特記事項に必要な内容を 決めている想定。	

※これは例であり、地域において様式に記載すべき事項を検討した上で、各市町村において様式を作成し、利用すること。
 ※特に記載が必要な内容事項がない場合「なし」や「-」と記載等 することで足りるものとする。

(表)

避難行動要支援者の「マイ・タイムライン」と「地域タイムライン」

作成日：令和2年7月29日

■災害への備えと個人情報使用の同意について

災害発生時に地域の支援者と安全に避難できるよう、「私に必要なこと」を理解してもらうため、私に関する情報を関係機関・者と共有することに同意します。

ふりがな まつき はな	氏名 松木 はな	性別 男 女	生年月日 昭和 * 年 10 月 10 日	85 歳
住所 兵庫県○○市○○町○○1丁目2番	電話番号 000-000-0000	事業所名 ひよりのすけ相談室	作成者 ケアマネジャー-兵庫太郎	

災害リスクを知って「逃げるタイミング」を理解しましょう。地域で協力し、「誰ひとり取り残さない避難」へ。

■住まいに起こりうる災害は…ハザードマップで確認を！

<input type="checkbox"/> 住まい	建築時期 昭和50年 頃	構造 木造	鉄骨・鉄筋	平屋建て
<input type="checkbox"/> 洪水	浸水区域内 区域外			
<input type="checkbox"/> 土砂災害	警戒区域内 区域外			



■ペットを飼っていますか はい いいえ

一緒に避難する チョちゃん (チワワ・メス10歳)

知人らに預ける (日前())

■避難準備にかかる時間は？

<input checked="" type="checkbox"/> 家族らへの連絡	10 分
<input checked="" type="checkbox"/> 持ち出し品の準備	15 分
<input checked="" type="checkbox"/> 家の戸締まり	20 分
計	45 分

■どこに避難しますか

避難先 1 ふくし小学校

避難先 2 岡山の娘宅

自宅の浸水しない場所 (2階以上など) → 手助けが必要 手助けは不要

■距離 ■手段 ■移動時間

1.2km	車いす	30 分
150km	車	120 分

<input checked="" type="checkbox"/> 避難先 1 へ必要な時間 (① + ②)	計	75 分
<input type="checkbox"/> 避難先 2 へ必要な時間 (① + ③)	計	165 分

■持ち物リスト

<input checked="" type="checkbox"/> 現金 (小銭)	<input checked="" type="checkbox"/> マスク
<input checked="" type="checkbox"/> 保険証	<input checked="" type="checkbox"/> 手指消毒液
<input checked="" type="checkbox"/> 服用薬	<input checked="" type="checkbox"/> 体温計
<input checked="" type="checkbox"/> お菓手帳	<input checked="" type="checkbox"/> 石けん
<input type="checkbox"/> 携帯電話 (充電器も)	<input checked="" type="checkbox"/> 使い捨てビニール手袋
<input checked="" type="checkbox"/> 着替え	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> メガネ	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 入れ歯	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 補聴器	■自宅に必要な備え
<input checked="" type="checkbox"/> 車いす (借りる)	<input checked="" type="checkbox"/> 非常食 (4) 日分
<input checked="" type="checkbox"/> 杖・シルバーカー	<input checked="" type="checkbox"/> 飲料水 (4) 日分
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 懐中電灯 (電池も)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(表)

※例 1 (P. 162, 163)、例 2 (P. 164, 165) のいずれかを作成することとしている。

目安の時間	警戒レベル	私の行動	地域（支援者）の行動
3日前	レベル1	<input checked="" type="checkbox"/> 家の周りの点検と片付け <input checked="" type="checkbox"/> 気象情報の確認を始める (××川の様子も確認) <input checked="" type="checkbox"/> 避難先・避難経路の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 水・食料・ガソリン⇒服用薬などの準備 <input checked="" type="checkbox"/> 避難先 (親戚、知人宅)⇒に連絡 <input type="checkbox"/> ★娘宅 (□□□-□□□-□□□□) に連絡 <input type="checkbox"/> 状況と迎えが可能か確認する。 <input type="checkbox"/> ⇒迎えが可能な時は移動。地域支援者に避難先を伝える。	<input checked="" type="checkbox"/> 地区内の役割分担・連絡体制の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 避難経路の状況確認 <input checked="" type="checkbox"/> 避難所の防災用品・備蓄品の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 要支援者と支援者の予定を確認 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	早期注意情報	<input checked="" type="checkbox"/> 気象情報の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 避難経路の確認 (××川の様子も確認) <input checked="" type="checkbox"/> 非常用持ち出し袋の準備 <input checked="" type="checkbox"/> 地域の支援者への連絡 <input type="checkbox"/> ★佐藤さん (○○○-○○○-○○○○) <input type="checkbox"/> ★老人会長 (△△△-△△△-△△△△) <input type="checkbox"/> ★民生委員 (×××-×××-××××)	<input checked="" type="checkbox"/> 要支援者の所在確認 【誰が：佐藤家、老人会長】 <input checked="" type="checkbox"/> 避難所の開設確認 【誰が：自治会長、老人会長】 <input checked="" type="checkbox"/> 要支援者に避難準備呼びかけ <input type="checkbox"/> 【誰が：佐藤家、老人会長、民生委員】 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	レベル2	大雨・洪水注意報 避難行動を確認 大雨洪水警報等	<input checked="" type="checkbox"/> 要支援者に避難呼びかけ 【誰が：佐藤家、老人会長、自主防】 <input checked="" type="checkbox"/> 要支援者の避難誘導開始 【誰が：佐藤家、自主防】 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7時間前	レベル3	個別支援計画に沿って避難開始 高齢者等は避難開始	<input checked="" type="checkbox"/> 要支援者に避難呼びかけ 【誰が：佐藤家、老人会長、自主防】 <input checked="" type="checkbox"/> 要支援者の避難誘導開始 【誰が：佐藤家、自主防】 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	レベル4	危険な場所から避難	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
3時間前	レベル5	命を守る行動を！	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
0時間			

■自由記述欄

(裏)

※ここに示した警戒レベルなどのタイミングはあくまでも目安であり、実際の災害時とは異なります。防災・気象情報などを参考にしながら、状況に応じて早めに判断してください。
 ※例1 (P. 162, 163)、例2 (P. 164, 165)のいずれかを作成することとしている。

避難行動要支援者のための個別支援計画

基礎情報	ふりがな 氏名	ひょうご 兵庫	いちろう 一郎	年齢	53歳	性別	男・女	
	住所	神戸市中央区下山手通5-10-1						
	電話	078-XXX-XXXX		F A X	078-XXX-XXXX			
	E-mail	Ichiro_Hyogo@abc.com						
	家族構成・同居情報等	両親は京都府在住 疎遠でほとんど連絡なし		居住建物 見取図	建築時期	昭和63年	構造	木造2階建
	妹（大阪府在住）が隔週 で様子を見に来る		耐震診断		未実施	家具固定	未実施	
	4年前に障害者支援施設 を退所後、グループホーム 生活を経て、昨年7月 から一人暮らし		※寝室の位置、普段いる部屋等					
要支援情報	介護認定	(認知症) 有・無						
	障害者手帳	身体障害者手帳3級（体幹）、療育手帳A（知的、自閉症）						
	その他留意事項							
利用中の医療福祉サービス	介護保険／総合事業	サービス					電話	
		事業所名						
	障害福祉／児童福祉	サービス	居宅介護					
		事業所名	GENKI介護事業所		電話	XXX-XXXX		
	医療機関	名称	ひょうご整形外科クリニック		電話	XXX-XXXX		
家族等急連絡先	①	ふりがな 氏名	ひょうご 兵庫	はなこ	続柄等	妹	住所	大阪府池田市〇〇〇
		電話	XXX-XXXX	F A X	XXX-XXXX	E-mail	XXX@bbb.or.jp	
	②	ふりがな 氏名	こうべ 神戸	たかし 隆	続柄等	相談支援専門員	住所	神戸市中央区〇〇〇
		電話	XXX-XXXX	F A X	XXX-XXXX	E-mail	XXX@ddd.or.jp	
緊急時の情報伝達	できるだけゆっくりと分かりやすい言葉を使用する。 漢字の多い書類は理解が困難であるため、図やひらがな、ルビを活用する。							
特記事項	歩行は可能だが、体幹障害があるため迅速な移動は困難である。 パニックの際は自傷行為の可能性がある。							

※例1 (P.162, 163)、例2 (P.164, 165) のいずれかを作成することとしている。

※URL <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk37/saigaijiyouengha.html>

(裏)

避難誘導時の留意事項	介助者による強制的な移動はパニックをもたらす恐れがある。自力歩行が可能であるため、差し迫った危機ではない限り、避難の必要性を分かりやすく説明し、誘導することが望ましい。また、人見知りであるため、できるだけ面識のある近隣住民が支援を行う方が良い。
携行医薬品	オキシトシン、リスパダール
避難先での留意事項	他人との接触が苦手であり、混雑した環境ではパニックになる可能性が高い。できるだけ個室環境を用意することが望ましい。なお、●●商店の店主A氏に信頼を置いており、本人の不安感が大きい場合はA氏と話をするとうち着きを取り戻す可能性がある。
避難場所	<p>【自宅 → 緊急避難場所 (〇〇公民館)】(車椅子)</p>
避難経路	<p>【緊急避難場所 (〇〇公民館) → 福祉避難所 (△△苑)】(避難支援者①の自動車)</p>
備考	風水害等で早期避難が可能な場合は、自宅から直接△△苑に避難する。

避難支援者	①	氏名	ふりがな 兵庫 二郎	続柄等	近所	住所	神戸市中央区〇〇〇
		電話	XXX-XXXX FAX XXX-XXXX	E-mail	XXX@ggg. or. jp		
	②	氏名	ふりがな 兵庫 三郎	続柄等	近所	住所	神戸市中央区〇〇〇
		電話	XXX-XXXX FAX XXX-XXXX	E-mail	XXX@hhh. or. jp		
	③	氏名	ふりがな 兵庫 四郎	続柄等	近所	住所	神戸市中央区〇〇〇
		電話	XXX-XXXX FAX XXX-XXXX	E-mail	XXX@jjj. or. jp		

令和 2 年 1 月 14 日

上記の内容について、誤り等がないことを確認しました。

氏 名 兵庫 一郎

代理署名

(本人との関係)

兵庫 印

※例 1 (P.162, 163)、例 2 (P.164, 165) のいずれかを作成することとしている。

※URL <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk37/saigaijiyouen13sha.html>

みんなで避難を考える

地域連携型 要配慮者マイ・タイムライン (個別避難計画)

～作成ヒント集～

いざという時は、
みんなで声をかけあって
避難しよう！



マイ・タイムラインとは：

災害が起こりそうなとき、自分がいつ、なにをするか整理した行動計画

目次

項目	ページ
作成の目的	16
作成のながれ	17～18
作成のポイント	19～20
要配慮者マイ・タイムライン シートの説明	21～24
作成事例	25～27
訓練での活用事例	28
作成者の声	29～30
さいごに	31

みんなで一緒に逃げる

逃げ遅れゼロを目指して

最近、災害のことをニュースで良く見ませんか？

それがもし自分の住むまちのことだったら、迷わず避難できますか…

「まさか、こんなことになるなんて」「ここは大丈夫だと思っていたのに」
被災された方々はみんな言われます。

みなさんをご存知でしょうか。

体が不自由な方や高齢の方は、自分が避難所に行く、みんなに迷惑をかけるのではないかと心配し、避難をためらってしまうのです。

そんなまちは、誰もが幸せに暮らせる住みやすいまちでしょうか。

「自分のことで精一杯で、近所のお年寄りに声をかける余裕がなかった」

「いつも福祉サービスが来ているから大丈夫だと思った」

なぜ、あのときに声をかけなかったのか。悔やむ声をたくさん聞きました。

避難をひとりで決断するのは、とてとても難しいです。

だからこそ、災害の起きていない今、ご近所さんとみんなで避難について話し合ってみませんか。

「避難どうする？」 その問いかけがみんなの命を救います。

「逃げ遅れゼロ」は被災を経験した地域からの願いです。

みんなで**逃げ遅れゼロ**を目指しましょう

- ◆ 「避難しよう」それはあなたが避難するきっかけにもなります！
- ◆ 「できるときに、できるだけ」でいいのです！（無理はしない）
- ◆ みんなで集まって話をするのが一番大切です！

マイ・タイムライン作成のきっかけ

何かしなければとは思いますが、

- きっかけがない
- とおり近所の人を知らないで、人を集めるのはむずかしい

とっていませんか。

どうやって人を集めたのかを紹介します！

地域（とおり近所）が声かけ

- 車いすのAさんの近くに住んでいる友だちが、Aさんの避難を心配し、Aさん家族や近所に声をかけて作成。

地域のリーダーが声かけ

- 地域のリーダー（まちづくり推進協議会会長）が、「1人で避難がむずかしい人のマイ・タイムラインを作成してほしい！」と町内会長にお願い。町内会長が、近所に声をかけて作成。
- 民生委員が、自分が担当している避難に支援が必要な人（要配慮者）の家族、近所に声をかけて作成。

福祉事業所が声かけ

- 福祉事業所が、地域のリーダーに相談。地域のリーダーが、近所に声をかけて作成。
- 福祉事業所が行政機関に相談。行政機関が町内会役員に相談し、町内会役員が要配慮者の近所に声をかけて作成。

マイ・タイムラインの作成の流れ(例)

地域発で「マイ・タイムライン」を作ろうとなった後の実例です。

1 作成の呼びかけ

要配慮者Aさんの近所の友だちBさんが、Aさんの家族に、マイ・タイムラインを作ってみない？と声かけ

2 となり近所に声かけ

- Bさんが、普段から付き合いがある近所の知り合いに声かけ
- Aさんの家族が、利用している福祉事業所に声かけ
- みんなの都合をあわせて、Aさんの家に集まる日を決める

3 Aさんの家に集合

自己紹介をして、まずは雑談

4 避難について話をしよう

- Aさんと家族に避難をどう考えているか教えてもらう
- Aさんに必要な支援を、家族や福祉事業所が説明
- 「どこに」「いつ」「誰と」「どうやって」避難するかみんなで話し合う
- 要配慮者マイ・タイムラインシートを使いながら、
 - 災害時にお手伝いできること
 - 普段からできることなどについて話し合う

シートを埋めることが目的ではなく、顔が見える関係を築くことが大事！

5 連絡先を交換

- 携帯番号とLINEを交換
- LINEグループを作成

6 さあ、本番はこれから！

- 大雨の際に、LINEグループで、連絡をとりあっています！



避難についての話し合いのポイント

「どこに」「いつ」「誰と」「どうやって」避難するか

みんなで話をすると自然に決まった！となったらいいですね。

話をする時に、意識するポイントを、お知らせします。

（要配慮者の方の名前をAさんとします。）

① はじめに聞くこと

支援する側の考えを押しつけては、いざというときに動けません。
Aさんの思いを、はじめに聞くことが一番大切です。



【聞いたら良い内容】

- ・（被災の経験があれば）実際にどこに避難したか
- ・大雨が降ったら、どこに避難しようと考えているか
（まわりの方々に迷惑をかけたくないので、避難所には行けない。
〇〇へ避難を考えているなど。）

② Aさんのことをもっと教えて

どのような支援が必要なのか、Aさんのことを一番よく知っている
家族や福祉事業所の方から教えてもらいましょう。



【聞いたら良い内容】

- ・ふだんの生活で困っていること
- ・家族や親せきとの関係
（大雨の時に来てくれるのか、普段から連絡をとっているか など）
- ・ふだん行動する範囲（知らないところには避難ができない）

避難についての話し合いのポイント

③ 「どこに」「いつ」「誰と」「どうやって」避難するか

★Aさんと家族

- 避難先（大雨、地震など、災害の状況が違うので、少なくとも2つ以上は考えておきましょう）
- 避難をする時は、何をきっかけに、誰に連絡するか（警戒レベル3が目安です。携帯がなって知らせてくれます）
- 誰と一緒に避難するか
- 避難先でどんな助けが必要か
- 薬はどのように確保するか



★別居家族

- （一緒に避難する場合）何をきっかけに迎えに来るか
- 事前の声掛け（電話含む）はいつするか（できるか）

★近所

- 大雨が予想されるとき、声をかけられるか
- 自分が避難をするとき、声をかけられるか
- 一緒に避難することができるか



④連絡先の交換

「緊急時につながる連絡先」を知っておくことが必要です。

携帯番号やメール、LINEなどを交換しておくといいです。

LINEなど、SNSでグループをつくっておくと、みんなに一度に連絡ができて便利です。

要配慮者マイ・タイムライン 作成事例(表面)

マイ・タイムライン (個別避難計画)

作成日: 2020年10月1日

氏名: 真備 一郎		家族 (別居)	近所	組織 (会社・施設・ケアマネ等)
住所: 倉敷市真備町●●		ふりがな 関係: 娘 氏名: 倉敷花子 携帯: 000-000-0000	ふりがな 関係: 近所 氏名: 鈴木 携帯: 000-00-0000	名称: スマイル福祉事業所
携帯: 000-000-0000		ふりがな 関係: 氏名: (- -) 携帯: (- -)	ふりがな 関係: 近所 氏名: 佐藤 携帯: 000-00-0000	担当者: 橋本
いつもいる場所(昼 自宅 夜 自宅) 避難リュックの置き場所(玄関)		ふりがな 関係: 氏名: (- -) 携帯: (- -)	ふりがな 関係: 氏名: (- -) 携帯: (- -)	連絡先: 000-000-0000
<input checked="" type="checkbox"/> 一人暮らし <input type="checkbox"/> 高齢者世帯 <input type="checkbox"/> 障害 <input type="checkbox"/> 小学生以下 <input type="checkbox"/> その他(糖尿病)		ふりがな 関係: 氏名: (- -) 携帯: (- -)	ふりがな 関係: 氏名: (- -) 携帯: (- -)	
自宅の危険性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸水 <input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 地震		ふりがな 関係: 氏名: (- -) 携帯: (- -)	ふりがな 関係: 氏名: (- -) 携帯: (- -)	
5 3 日前	<input checked="" type="checkbox"/> テレビなどで大雨の情報を知る <input checked="" type="checkbox"/> 薬を余分にもらっておく <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input checked="" type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input checked="" type="checkbox"/> 大雨情報を伝える <input type="checkbox"/> 薬を確認する <input checked="" type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 大雨情報を伝える <input type="checkbox"/> 薬の準備の声かけ <input type="checkbox"/> 持ち物準備の声かけ <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 避難可能場所の把握・共有 (L3以前 _____) (L3以降 _____) <input checked="" type="checkbox"/> 避難先で必要な物を再確認
2 日前	<input checked="" type="checkbox"/> いつ避難するか相談 相談する人(娘)	<input checked="" type="checkbox"/> 避難準備の声かけ(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声かけ(再確認)	
1 日前	<input checked="" type="checkbox"/> 家族・近所と避難準備状況を確認 <input checked="" type="checkbox"/> 避難先を決める 候補 { <ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅2階 ・ ▲▲寺(届出避難所) ・ ●●小学校 	<input checked="" type="checkbox"/> 準備状況の確認(電話等) <input checked="" type="checkbox"/> 避難先を決め、LINEグループに報告 <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input checked="" type="checkbox"/> 準備状況の確認(可能なら訪問) <input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input checked="" type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input checked="" type="checkbox"/> 避難準備の声かけ(再確認) <input checked="" type="checkbox"/> 避難先の報告を受け、主治医等関係機関に情報共有
避難スイッチ (警戒レベル3が発令されたとき)				
4 時間前	<input checked="" type="checkbox"/> 避難の希望を介助者に伝える <input checked="" type="checkbox"/> 貴重品の準備 <input checked="" type="checkbox"/> 荷物を持って玄関で援助を待つ (居室から玄関まで 5 分) <input checked="" type="checkbox"/> 避難終了	<input checked="" type="checkbox"/> 介助の希望をLINEグループに依頼 <input type="checkbox"/> 貴重品の準備 <input type="checkbox"/> 車の準備 <input type="checkbox"/> 避難開始 <input checked="" type="checkbox"/> 避難完了を確認(LINE)	<input checked="" type="checkbox"/> 介助の必要性を確認 <input checked="" type="checkbox"/> 車の準備(1: 佐藤, 2: 鈴木) 花子さんからLINEが来たら、一郎さん宅を訪問し、一緒に避難 <input checked="" type="checkbox"/> 避難完了を報告(LINE)	<input checked="" type="checkbox"/> 避難完了を確認(LINE)
L4 避難勧告・避難指示				
2 時間前	21			

【持ち物チェックリスト】

<日頃から準備しておくもの>

- 非常食
- ハット・ボトルの水
- 歯ブラシ・セト・洗口液・入れ歯洗浄剤
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- 季節にあつた衣類・防寒具
- 靴下
- タオル
- 簡易トイレ・おむつ
- トスク
- 使い捨てカイロ
- 現金 (最低限)
- 薬 (常備薬・常備薬) ・医薬品 (消毒液・絆創膏)

<直前に準備するもの>

- 通帳
- 免許証
- 健康保険証
- 各種診察券
- 印鑑
- 財布 (現金)
- 薬 (処方薬) ・お薬手帳
- 眼鏡・コンタクトレンズ (ケース・洗浄液含む)
- 携帯電話・スマートフォン
- 充電器・モバイルバッテリー
- 簡易トイレ・おむつ
- 入れ歯 (ケース含む)
- 補聴器

【持病など】

主病名: **糖尿病**

主治医: **▲クリニック**

(連絡先) **000-0000-0000**)

会社・学校・介護事業所等: **スズイル福祉事業所**

(連絡先) **橋本 000-0000-0000**)

家族・親戚: **倉敷花子 (姉)**

(連絡先) **000-0000-0000**)

【本人の状態】

移動: 歩ける (杖: 有・無 歩行器: **有**・無) 歩けない (車椅子: 有・無)

会話: **会話が出来る** 会話が出来ない

食事: **自分でできる** 自分で出来ない

視力: **見える** (めがね 有・無) **見えにくい** 見えない

聴力: **聞こえる** (補聴器 有・無) **聞こえにくい** 聞こえない

その他 ()

【服用している薬】

お薬手帳のコピーを貼ってください

■災害用伝言ダイヤル (安否確認)

災害時に安否確認・居場所確認などの緊急の伝言ができます。事前にこの電話番号で連絡を取り合うか合意しておきましょう。

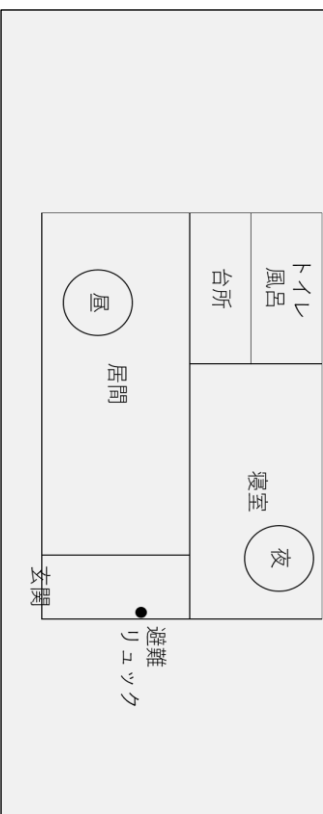


■個人情報保護及び共有について

本資料で入手した個人情報は災害対応以外の目的には使用しません。また、対応に当たっては下記の関係機関で情報を共有する可能性があります。情報共有してもらいたい<くない>機関があれば、該当欄に「X」を記入ください。

民生委員	市役所	警察署	消防署	まちづくり	避難所運営者	社会福祉協議会

【家の間取り図 (逃げ遅れ時等の救出用)】



【避難届けカード】

避難所受付登録時に提出してください。

このカードを提出した方は、避難所受付登録が不要です。

※不特定多数に見られても問題ない内容のみを記載ください

名前・年齢 **真備一郎 80才**

・代表者 (才) (才)

・家族 (才) (才)

住所 **倉敷市真備町**

所属する町内会名など

●地区町内会

配慮が必要なこと

歩行器が必要、聞こえにくい、見えにくい

アレルギー

なし

ペットの有無 犬・猫・その他 ()

なし

その他

緊急避難後の行き先 福祉避難所を希望 **自宅を希望** その他

外部からの安否確認における氏名公表の可否

可 . 否

要配慮者マイ・タイムライン 作成事例

地域発！

きっかけ

車いすのAさんの避難を心配し、近所のBさんが、Aさんの家族にマイ・タイムラインを作成してはどうかと声かけ。

Bさんがとなり近所に声をかけ、Aさんの妻が利用している福祉事業所に声をかけ、みんなでAさんの家に集まり作成。

作成メンバー

要配慮者Aさん（男性）、妻、近所2名、福祉事業所職員

Aさんの状況

- ・自力では歩けない（車いす）、胃ろう（専門家のケアが必要）
- ・コミュニケーションは良好
- ・妻の運転する車で、Aさんと妻の2人で移動することは可能
- ・妻だけでAさんを2階へ避難させることは難しい

話し合っただけのこと

- ・大雨が降っていない、避難ができる状況であれば、妻が車を運転し、避難所に避難
- ・すでに大雨が降っている場合は、妻が近所の方に依頼し、自宅2階に避難
- ・避難が完了したらLINEで報告

効果

- ・大雨の際、実際に、近所の助けをかりて、自宅2階に避難できました！



避難直後の様子

福祉事業所と民生委員の連携！

きっかけ

Cさんが利用している福祉事業所が、民生委員にマイ・タイムラインの作成を相談し、民生委員がCさんの近所に声を掛け

作成メンバー

要配慮者Cさん（女性）、別居家族、近所2名、民生委員、福祉事業所職員

Cさんの状況

- ・ 認知症のため、緊急時に一人で避難できるか不安
- ・ 一人暮らしで、台所にも立っている
- ・ 息子・娘夫婦は別居しているが、週1日程度帰省
- ・ 住まいは浸水の心配は低いが、土砂災害警戒区域内
- ・ 家が古いので地震も心配

話し合っただけ決めたこと

- ・ 避難先は近所の届け出避難所とする
- ・ 近所の人々が車で避難する場合は、Cさんも誘い、できるだけ一緒に避難する

効果

- ・ 近所同士も携帯を知らなかったため、連絡先を交換できた
- ・ お互いに一声かけるよう意識するようになった
- ・ 近所の人と福祉事業所も気軽に連絡できるようになった



作成中の様子

福祉事業所と地域の連携！

きっかけ

福祉事業所が、要配慮者Dさんが住んでいる地域のリーダーEさんに、Dさんの避難について相談。

EさんがDさんの近所の方に声をかけ、集会所に集まり作成

作成メンバー

要配慮者Dさん（男性）、長男夫婦、近所3名、地域のリーダーEさん、福祉事業所職員

Dさんの状況

- ・ 歩行困難（歩行器を利用すれば、ゆっくりとだが歩行可能）
- ・ 自分のことは自分でしっかりとでき、意思疎通も可能
- ・ 糖尿病で常時服薬が必要
- ・ 長男夫婦が近くに住んでいる

話し合って決めたこと

- ・ 長男夫婦がDさんと一緒に避難する
- ・ 近所の友人は高齢化が進み、いざという時は、自分のことで精一杯なので、自分が避難する場合はできるだけ声をかけあうようにする
- ・ 天気予報で大雨が予想されたら、会ったときに話題にする

効果

- ・ 当初、Dさんは「みんなに迷惑をかけるので避難所には行かない」と言っていたが、みんなと話をする中で、長男夫婦と一緒に避難することを自分の意思で決めた。



家族じゃないからこそ
聞いてもらえることも！

要配慮者マイ・タイムラインの活用事例

～訓練で地域とつながる～

要配慮者と家族、近所、地域と一緒に避難訓練を実施

訓練概要

【訓練前日】

台風が近づき、翌日昼から大雨、夕方には大荒れの天気になると報道

要配慮者マイ・タイムライン 関係者

- SNSグループで翌朝9時から避難を始め、10時までに避難の完了を目指そうと決める
- 福祉事業所が、みんなに9時から避難を始めようと呼びかけ

福祉事業所が、地域に避難所開設を依頼

地域 (まちづくり推進連絡協議会)

- 会長から、担当者に、翌朝9時に避難所を開設するようお願い

【訓練当日】

- タイムラインにもとづき、自分がやるべき、声かけや避難を実施

- 9時に避難所開設
- 避難者の誘導・受付を実施



避難の様子
(計画通り行かないことも痛感)²⁸

受付の様子
(簡素化が重要！)

作成者の声



三宅泰治さん
敬子さん
(要配慮者・家族)

マイ・タイムラインを地域の方と一緒に作ったおかげで、実際に大雨が降った際、地域の方々に電話で避難を呼びかけてもらったり、そーる（地域の訪問看護事業所）の職員や地元の消防団のメンバーなどが駆けつけてくれて、車椅子の私を2階へ避難させてくれました。

西日本豪雨では自宅の1階が水没しており、大雨が降ると1階にいると心配に

なりますが、車いすで2階に避難することは、家族だけでは難しいのが実情です。

マイ・タイムラインを作成し、地域の方がいざというときに助けてくれることは本当に心強く感じています。



片岡合さん
(要配慮者)

西日本豪雨では自宅の1階が浸水しました。私は高齢者で脚が不自由なので、避難所に行く、皆さんに迷惑をかけるのではないかと思います、自宅2階にとどまっていた。また、自衛隊が逃げ遅れ者がいないか確認に来られましたが、みつかったら避難所に連れて行かれると思います、隠れたり

もしていました。結果的には、排泄物を部屋の片隅に保管していましたが、ニオイに耐えきれず、避難所に移動しました。

マイ・タイムラインの作成にあたり、近所の皆さんから、何も迷惑にならない、一緒に逃げようと言われ、その言葉が本当にうれしく、逃げて良いんだと言うことを気づかされました。あってはほしくないけど、もし、また大雨が降るようなことがあったら、今度はためらわずに避難しようと思います。



土師みちるさん
(家族)

西日本豪雨では両親の家は浸水はしませんが、なかなか連絡がとれず、高齢者のため、福祉事業所の支援がないと通常の生活に支障が生じる状況の中、どうしているのか非常に不安な時間を過ごしました。

当時は両親の隣近所の方々とはほとんど面

識がなく、両親とどのような付き合いがあるのかも分かりませんでした。マイ・タイムラインの作成にあたり、みなさんとお会いさせていただき、両親が元気な頃にお世話になったといった感謝の言葉や、昔の恩返しをしたいのでできるだけ協力したいというような温かい言葉を頂き、本当に嬉しい思いです。

また、連絡先も交換させていただき、緊急時はもちろんのこと、日頃から気になることがあれば連絡してと言っていたので、本当に安心と感謝の気持ちです。



山中幸恵さん
(近所の住民)

近所に要配慮者がいることは知っていましたが、毎日のように福祉事業所も来ているので、どこまで関わって良いか分からず、余計なことはしないほうが良いのかなとモヤモヤした気持ちでした。

縁あって、マイ・タイムライン作りに関わ

らせてもらい、別居されている息子さん夫婦から、両親を気にしてもらってありがたい、声を掛けていただけることは大変ありがたいと言っていました。

私は仕事もしているので、いつでも対応できるわけではありませんが、日常的に声を掛け、いざというときは、一緒に車で避難をしたいと考えています。

ご家族や福祉事業所のケアマネさんと連絡先を交換したので、積極的におせっかいをさせていただきます。

作成者の声



津田由起子さん
(小規模多機能ホーム
ぶどうの家真備 代表)

高齢者や要配慮者が大雨や強風の中、避難をすることはとても難しく、警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）が発令されてから避難を開始するのは遅いと感じています。

ぶどうの家では、利用者と一緒にマイ・タイムラインを作成し、家族などと一緒に

避難できないことが明らかになった人は、迎えに行き、一緒に避難することを想定しています。しかし、急激な天候の悪化や夜間など、必ず対応出来るかわからないため、近所の方が避難に協力してくれたり、連絡先を交換させていただき、状況を共有させてもらえることは非常に心強いです。

皆で集まり、顔を合わせながら話をする時間がとても大切だと感じています。



多田伸志さん
(NPO岡山マインド
「こころ」 代表)

地域の方が障がい者を受け入れ、避難を支援してくれるなど、少し前までは考えられませんでした。今は、障がい者の避難先を、まちづくり推進協議会の方々が相談にのってくれるなど、みんなに温かいまちづくりが復興とともに進んできていると感じています。

地域の協力を無にしないためにも、すべての人が逃げ遅れないよう、できる限りの準備と訓練をしておくことが、責務だと考えており、マイ・タイムライン作りを進めています。

真備が、誰もが住みやすい「まち」として、復興していくためには、すべての人がまちのメンバーとして役割を担う必要があります。マイ・タイムラインはそんな温かいまちづくりに必要不可欠です。



守屋美雪さん
(箭田地区まちづくり
推進協議会事務局長)

西日本豪雨では多くの高齢者・要配慮者が被害にあわれました。私達にもっとできたことがあったのではないかと思うと悔しくてなりません。

たとえ、同じような洪水が発生したとしても、二度と真備から犠牲者を出したくないと思い、マイ

・タイムラインの作成を進めています。

特に、高齢になられた方々は、今でこそ地域との接点が少なくなっている人も多くいますが、昔は、地域活動に積極的に取り組まれたり、子ども達の見守りをしてくれたりと、今の真備をつくってくれた方々です。そういった地域の宝のような方々に、自分が恩返しできるチャンスだと思っています。

マイ・タイムラインの作成を通じて、お世話になった方々と久しぶりに会えるのも楽しみです。



瀬切宏美さん
(呉妹地区民生委員)

真備町は隣近所の結びつきが強い地域なので、西日本豪雨では私も含め、多くの方々が、高齢者等の自宅に避難の呼びかけをして回りました。そのおかげで無事避難ができた人が沢山いた一方、例えば民生委員は多くの高齢者等を担当しており、民生委員だけ

で声を掛けることの限界も感じました。

マイ・タイムラインの作成は重要性は感じていましたが、隣近所を集めたり、計画を作ったりと、とても大変なことをやらなければいけないのではないかと感じていました。しかし、実際にみんなで集まって避難について話をすると、みんな自分事として捉えてくれ、協力的なので難しいことはありませんでした。まずはやってみることが重要です。

さいごに

近年、自然災害が毎年のように全国各地で発生し、多くの尊い命が犠牲になっています。

逃げ遅れゼロを達成するためには、要配慮者も含め、隣近所で避難について話をし、マイ・タイムラインを作成しておくことが、効果的です。

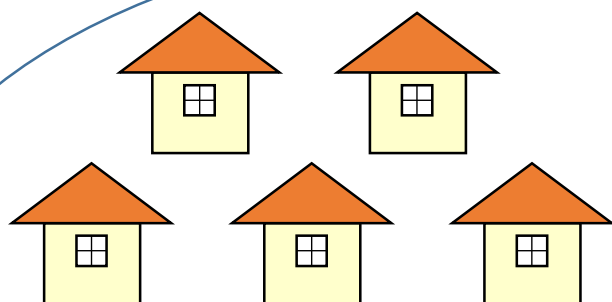
マイ・タイムラインの実効性を高めるためには、例えば避難先での助け合いルールなど、避難した後の対応を、町内会など地域コミュニティ単位で決めておくこと（地区防災計画）が重要です。

災害はシナリオ通りには起こりません。

その場その場で臨機応変な対応が求められます。

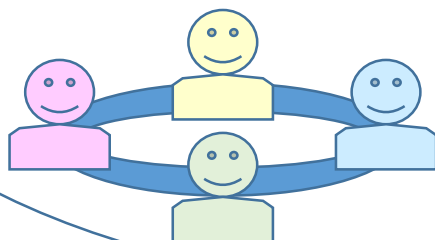
一方で、臨機応変な対応をするためには、基礎を固めておく必要があります、計画はその基礎を確認するために作成するものです。

まずは、みんなが覚えられる最低限の計画を、顔をつきあわせながら考えてみましょう。



地区防災計画

地域コミュニティとしての
災害時（平時も含む）の対応
を共有



要配慮者マイ・タイムライン

本人、家族、近所、組織で
タイムラインを共有・可視化

作成日：令和2年10月

作成機関：

真備地区関係機関・事業所等連絡会（真備連絡会）

真備高齢者支援センター（地域包括支援センター）

川辺地区まちづくり推進協議会

岡田地区まちづくり推進協議会

藺地区まちづくり推進協議会

二万地区まちづくり推進協議会

箭田地区まちづくり推進協議会

呉妹地区まちづくり推進協議会

服部地区まちづくり推進協議会

社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会

真備地区民生委員児童委員協議会

真備東地区民生委員児童委員協議会

川辺地区社会福祉協議会

岡田地区社会福祉協議会

藺地区社会福祉協議会

二万地区社会福祉協議会

箭田地区社会福祉協議会

呉妹地区社会福祉協議会

服部地区社会福祉協議会

倉敷市

国土交通省中国地方整備局 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所【事務局】

監修：

高知県立大学（災害看護学専攻）教授 神原咲子

香川大学 特命准教授 磯打千雅子

マイ・タイムライン（個別避難計画）

作成日： 年 月 日

ふりがな 本人(氏名):	家族	近所	組織 (会社・施設・ケアマネ等)
住所:	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	名称:
携帯:(- -)	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	担当者:
いつもいる場所(昼 夜) 避難リュックの置き場所()	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	
<input type="checkbox"/> 一人暮らし <input type="checkbox"/> 高齢者世帯 <input type="checkbox"/> 障害 <input type="checkbox"/> 小学生以下 <input type="checkbox"/> その他()	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	
自宅の危険性 <input type="checkbox"/> 浸水 <input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 地震	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	ふりがな氏名: 関係: 携帯: (- -)	
5 3 日前	<input type="checkbox"/> テレビなどで大雨の情報を知る	<input type="checkbox"/> 大雨情報を伝える	<input type="checkbox"/> 避難可能場所の把握・共有
	<input type="checkbox"/> 薬を余分にもらっておく	<input type="checkbox"/> 薬を確認する	(L3以前_____)
	<input type="checkbox"/> 持ち物の確認	<input type="checkbox"/> 持ち物の確認	(L3以降_____)
2 日前	<input type="checkbox"/> 買い出し	<input type="checkbox"/> 買い出し	
	<input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	
1 日前	<input type="checkbox"/> いつ避難するか相談 相談する人(_____)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)
	<input type="checkbox"/> 家族・近所と避難準備状況を確認	<input type="checkbox"/> 準備状況の確認	<input type="checkbox"/> 避難準備の声かけ(再確認)
	<input type="checkbox"/> 避難先を決める 候補 { . . .	<input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備
避難スイッチ（ L3 もしくは _____ ）			
4 時間前	<input type="checkbox"/> 避難の希望を介助者に伝える	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け
	<input type="checkbox"/> 貴重品の準備	<input type="checkbox"/> 貴重品の準備	
	<input type="checkbox"/> 荷物を持って玄関で援助を待つ (居室から玄関まで_____分)	<input type="checkbox"/> 車の準備	<input type="checkbox"/> 車の準備(担当: _____)
2 時間前	<input type="checkbox"/> 避難終了	<input type="checkbox"/> 避難開始	<input type="checkbox"/> 避難開始
	L4 避難勧告・避難指示		
L5 氾濫発生			

※ □にチェックがつかない場合は、誰が実施するのか決めておくこと

【持ち物チェックリスト】

<日頃から準備しておくもの>

- 非常食
- ペットボトルの水
- 歯ブラシ・歯粉・洗口液・入れ歯洗浄剤
- ナイフ・カッター・ウエットティッシュ
- 季節にあった衣類・防寒具
- 着替え (下着)
- 靴下
- タオル
- 簡易トイレ・おむつ
- スラング
- 使い捨てカイロ
- 現金 (最低限)
- 薬 (常用薬・常備薬) ・医薬品 (消毒液・絆創膏)

<直前に準備するもの>

- 通帳
- 免許証
- 健康保険証
- 各種診察券
- 印鑑
- 財布 (現金)
- 薬 (処方薬) ・お薬手帳
- 眼鏡・コンタクトレンズ (ケース・洗浄液含む)
- 携帯電話・スマートフォン
- 充電器 ・モバイルバッテリー
- 簡易トイレ・おむつ
- 入れ歯 (ケース含む)
- 補聴器

【持病など】

主病名:

主治医:

(連絡先 _____)

会社・学校・介護事業所等:

(連絡先 _____)

家族・親戚:

(連絡先 _____)

【本人の状態】

移動 : 歩ける (有・無) 歩行器: 有・無)

歩けない (車椅子: 有・無)

会話 : 会話ができる 会話ができない

食事 : 自分でできる 自分でできない

(普通食・やわらかい・ドロドロ)

視力 : 見える 見えにくい 見えない

(めがね: 有・無)

聴力 : 聞こえる 聞こえにくい 聞こえない

(補聴器: 有・無)

【服用している薬】

お薬手帳のコピーを貼ってください

【家の間取り図 (逃げ遅れ時等の救出用)】

【避難届けカード】

避難所受付登録時に提出してください。

このカードを提出した方は、避難所受付登録が不要です。

※不特定多数に見られても問題ない内容のみを記載ください

名前・年齢

・代表者 (才) (才)

・家族 (才) (才)

住所

所属する町内会名など

配慮が必要なこと

アレルギー

ペットの有無 犬・猫・その他 ()

その他

緊急避難後の行き先
福祉避難所を希望 ・ 自宅を希望 ・ その他

外部からの安否確認における氏名公表の可否

■災害用伝言ダイヤル (安否確認)

災害時に安否確認・居場所確認などの緊急の伝言ができます。事前にどの電話番号で連絡を取り合うか合意しておきましょう。



■個人情報保護及び共有について

本資料で入手した個人情報は災害対応以外の目的には使用しません。また、対応に当たっては下記の関係機関で情報を共有する可能性があります。情報共有してもらいたくない機関があれば、該当欄に「×」を記入ください。

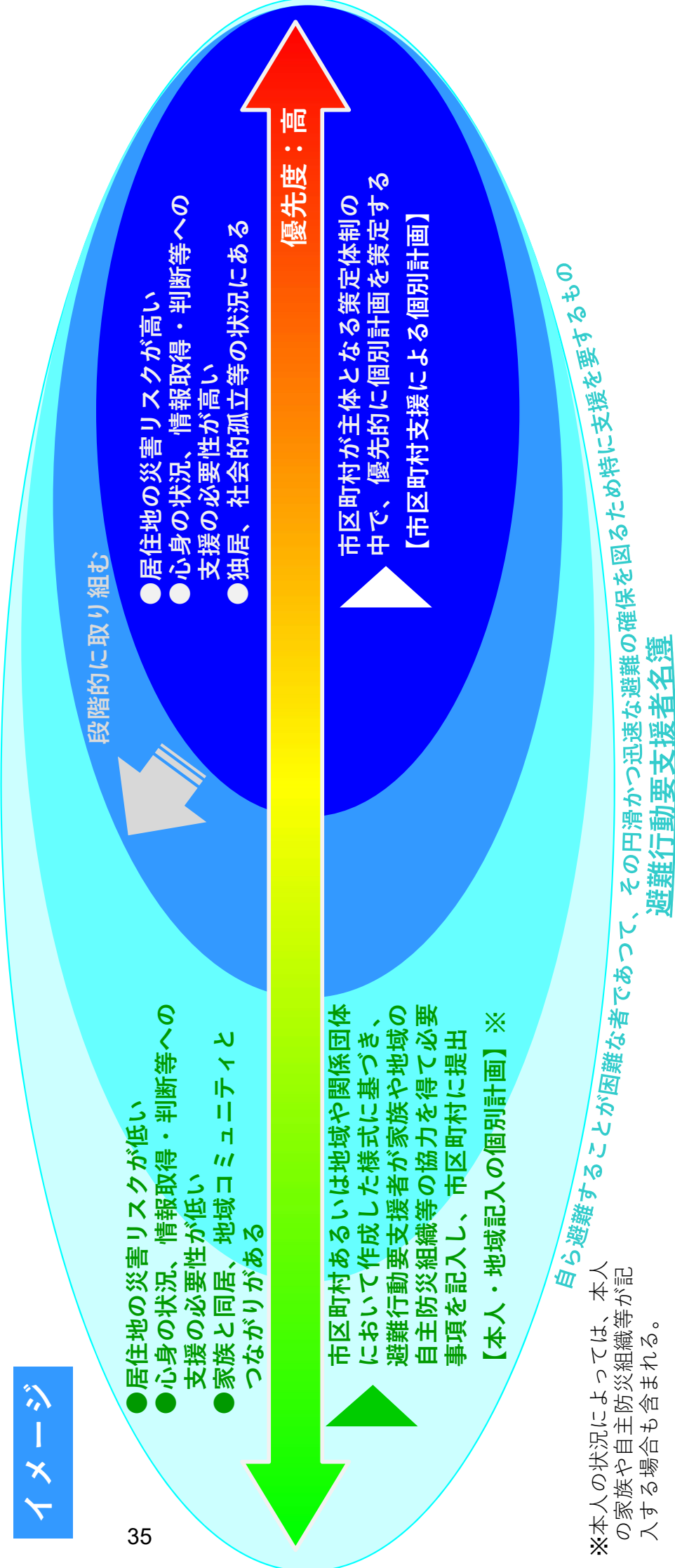
民生委員	市役所	警察署	消防署	まちづくり	避難所運営者	社会福祉協議会

優先度を踏まえた個別計画の策定

- 個別計画は、優先度が高い者から策定することが適当であり、市区町村が必要に応じて策定の優先度を判断する際には、次のようなことが挙げられる。
 - ・ 地域におけるハザードの状況（※）
 - ・ 当事者本人の心身の状況、情報取得や判断への支援が必要な程度
 - ・ 独居等の居住実態、社会的孤立の状況
- 他方、各市区町村の限られた体制の中でできるだけ早期に避難行動要支援者全体に計画が策定されるようにするためには、市区町村が策定する個別計画として、①市区町村が優先的に支援する計画づくりと並行して、②本人や、本人の状況によっては、家族や地域において防災活動を行う自主防災組織等が記入する計画（本人・地域記入の個別計画）づくりを進めることが適当である。

※浸水想定区域（水防法）、津波災害警戒区域・津波災害特別警戒区域（津波防災地域づくり法）、土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域（土砂災害防止法）、噴火に伴う火山現象による影響範囲（活動火山対策特別措置法（基本指針）に基づく火山災害警戒区域）等

イメージ



【事例】福祉専門職が参画した個別計画の策定(大分県別府市・兵庫県)

全国の先進的な取組

○福祉サービスの利用のためのケアプランを作成することを通じ、平時から避難行動要支援者本人の心身の状況や生活実態等を網羅的に把握している介護支援専門員(ケアマネジャー)や相談支援専門員等の福祉専門職の参画の下、本人や家族、地域住民、行政等が連携して、個別計画の策定を行う取組が行われている。

ポイント

- 介護支援専門員(ケアマネジャー)や相談支援専門員等の福祉専門職の参画を得るための仕組みとして、計画の策定に対して報酬を支払う。
- 福祉専門職が当事者と相談し、避難に際して必要な配慮等について整理した上で、避難行動要支援者と地域住民等の関係者が参加して避難支援の方針について打合せを行い、個別計画を策定する。
- 策定した計画をもとに当事者を含めた関係者が参加し、避難訓練を実施するとともに、必要に応じ計画の見直しを行う。
- 当事者と福祉専門職、地域住民等とをつなぐ役割を担うことのできる人材が重要となる。

別府市の事例

別府市におけるインクルーシブ防災「誰ひとり取り残さない防災」



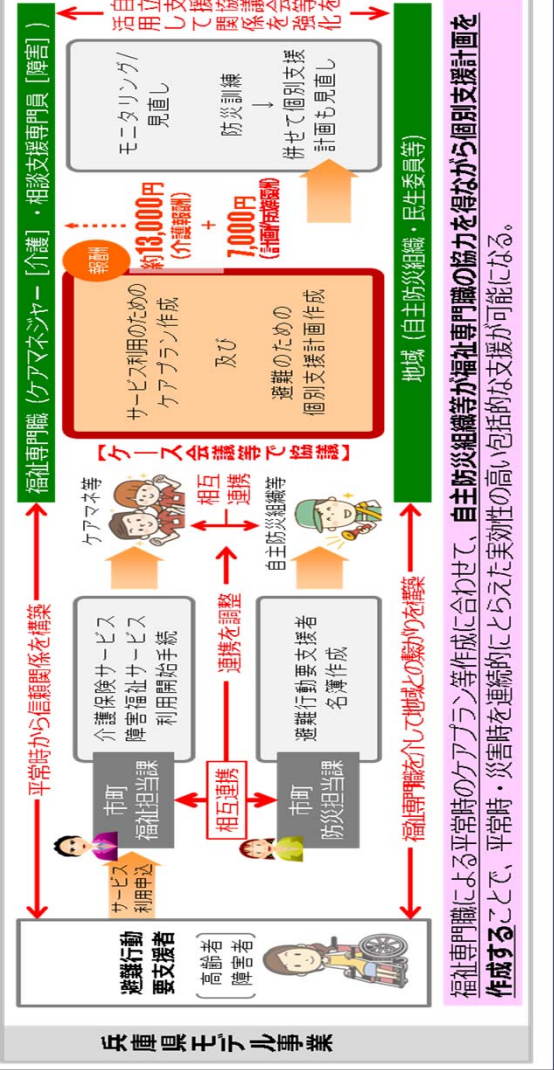
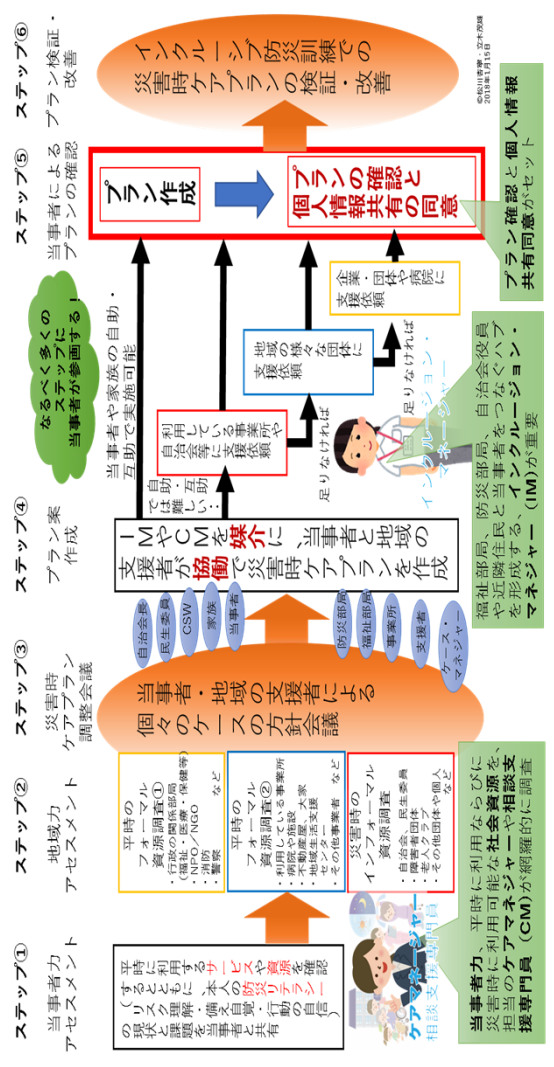
被災地の教訓から市民活動者と協働で障がい当事者が参加する避難訓練等に取り組んできた別府市では、平成29年度より介護支援専門員(ケアマネジャー)や相談支援専門員等の福祉関係者が参加し、当事者や地域、行政等が連携して個別避難計画作成に取り組んでいる。

兵庫県の事例

防災と福祉の連携促進モデル事業



平成30(2018)年度より介護支援専門員(ケアマネジャー)や相談支援専門員の協力を得て、平常時のケアプラン等の作成に合わせ、地域で避難のための個別支援計画を作る「防災と福祉の連携モデル事業」を実施。令和2年度より、県の一般施策として実施。



【事例】 地域調整会議（ケース会議）の開催（兵庫県内の市町）

○ 兵庫県の市町における個別計画策定のための地域調整会議（ケース会議）への出席者、
 議事内容の例は以下のとおり。
地域調整会議（ケース会議）：対象者の支援関係者が集まり、個々の避難支援に関する方針等を協議。

【主な出席者】

避難行動要支援者本人、家族、福祉専門職、自主防災組織、自治会等、地域住民等、
 民生委員・児童委員、社会福祉協議会、福祉事務所、地域包括支援センター、
 県・市町職員（防災、福祉）、委託先職員等（※自治体によって出席者は異なる。）

【議事、運用上の工夫など】

① 本人の心身の状況の共有	福祉専門職等が当事者力アセスメントを踏まえて説明、動画や写真の活用も有効
② 避難に係る地域に存する社会資源に係る情報の共有	自主防災組織や市区町村職員から説明
③ 災害時に求められる近隣住民からの支援の内容	本人との対話や避難行動の模擬（車椅子を実際に持ち上げるなど）も有効
④ 災害時に必要な支援と資源の見える化	平常時との対比が有効、福祉分野で利用されているエコマップが有効
⑤ 求められる支援の具体化するために必要な調整の実施	支援者、移動手段、避難先などを検討する

【その他】

- ・ 多くは、集会所など地域にある公共施設だが、自宅で開催する場合もある
- ・ 地域調整会議（ケース会議）の機会を利用し、住民向け福祉研修会、当事者力アセスメント、地域力アセスメント、避難訓練の事前説明や打合せなどの調整等も併せて行う場合もある

【事例】避難訓練を実施した効果等（兵庫県内の市町）

（避難行動要支援者側）

- 避難に消極的だったが、訓練を通し避難できることがわかった。積極的になった。
- 避難支援者と避難行動要支援者の間に顔の見える関係が構築されないと避難支援が難しい。（※個別計画の実効性が確保できない）

（避難支援者側）

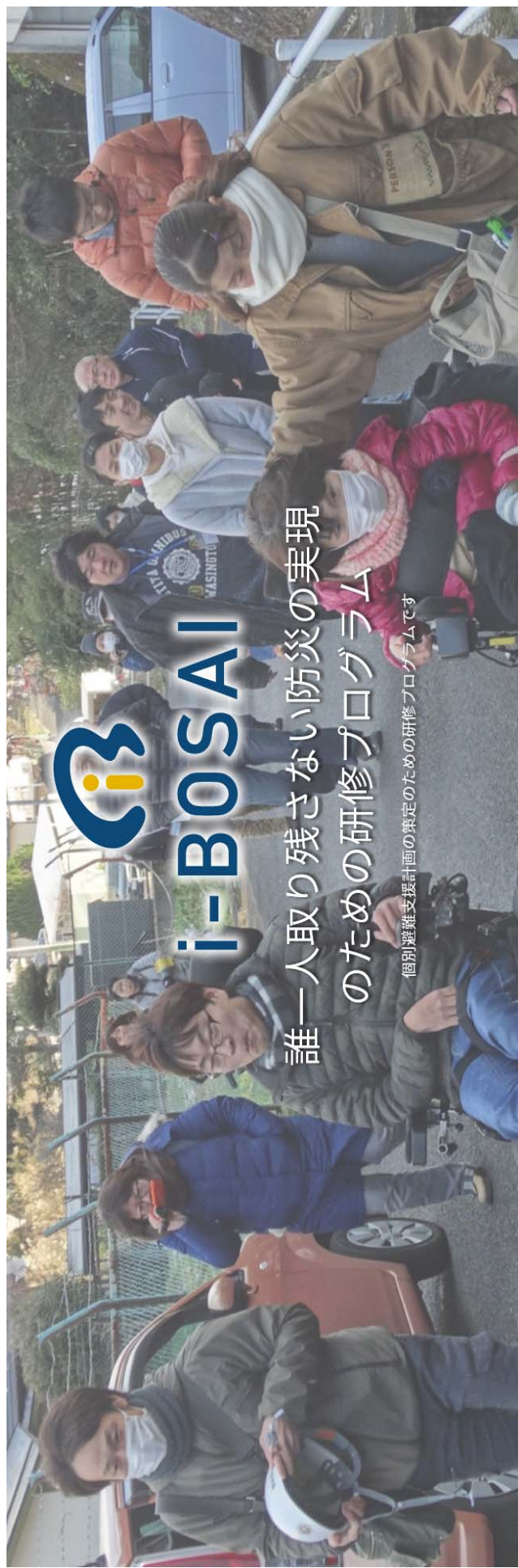
- 事前の想定と異なることが判明した。

避難経路	避難経路の途中に危険な箇所が存在 等
避難手段	進入可能な車輛の大きさに制限がある 等
配 慮	使用できる避難器具では足が露出するため防寒対策が必要 等

- より具体的に必要な避難支援の在り方が判明した。
 - ・ 避難訓練の中で、家の中に入れていただくことにより、屋内の位置関係、部屋の状況などを実地で理解した。
 - ・ 段差があるが勝手口から出られるようにするとスムーズだと判明した。

【事例】個別計画に関与する関係者に対する研修（i-BOSAI）

- i-BOSAIにおいては、別府市や兵庫県でのこれまでの取組が分析され、育成すべき人材（特に重要である防災・福祉部局、福祉関係者、地域を連結できる人材）に関する知見が蓄積されつつあり、研修用の素材（テキスト、動画等）への落とし込みも試行されている。 <https://i-bosai.inclusive-drr.org/>



i-BOSAI 誰一人取り残さない防災の実現のための研修プログラム

🏠 トップ | 📄 研修コンテンツ | 📺 動画ダイジェスト | 🗨️ 関連

研修コンテンツ - インクルージョン・マネージャー養成講座

インクルージョンマネージャーはどう行動しているか

- ▶ インクルージョンマネージャーはどう行動しているか 14:23
- ▶ インクルージョンマネージャーはどう考えているか 14:23
- ▶ インクルージョンマネージャーはどんな環境で仕事ができているか 10:09

研修コンテンツ - 災害時ケアプランの作成

1.個別アセスメント

▶ 1.個別アセスメント	05:54
▶ 2.災害時ケアプラン開発会議(課題移動編)	04:53
▶ 3.緊急ケアプラン作成から確認書作成まで	05:26
▶ 4.みんなで行ける防災訓練	06:55
▶ 5.災害時ケアプラン開発会議(課題生活編)	11:13
▶ 6.避難所運営訓練	10:00

1. 個別アセスメント